

# 金融サービス 事業

▶ Financial Services Business



## 主要企業

中間持株会社：SBIファイナンシャルサービシーズ

SBI証券	SBI損保
SBIジャパンネクスト証券	SBI生命
SBIリクイディティ・マーケット	SBIマネープラザ
SBI FXトレード	モーニングスター
住信SBIネット銀行	当社事業部 (ファイナンシャル・サービス事業)

SBIグループは、インターネットの普及・進化と金融の規制緩和という大きな時流を捉え、競争力の高い金融商品やサービスを提供することで飛躍的な成長を遂げてきました。今後は、生命保険事業への再参入によって完成した証券・銀行・保険を3大コア事業とする国内金融生態系において、事業間のシナジーを最大限発揮することで、さらに成長を加速していきます。

## 2015年3月期の業績

日経平均株価がリーマンショック前の高値水準を回復するなど、国内株式市場において緩やかな回復基調が続いたことに加え、収益力強化に向けた当社グループ独自の施策が奏功し、2015年3月期の金融サービス事業の営業収益は前期比10.0%増の1,626億円、税引前利益は673億円と同80.5%の大幅増となりました。

会社別では、SBI証券、SBIジャパンネクスト証券、SBIリクイディティ・マーケット、SBI FXトレード、SBIマネープラザ、モーニングスター、住信SBIネット銀行が過去最高益を更新、SBI損保とSBIカードは大幅な損失改善を果たすなど、各社とも好業績を達成しました。

## 金融サービス事業の主要グループ各社の 通期税引前利益(IFRS)

(百万円)

	2014年 3月期	2015年 3月期	前期比増減額 (増減率%)
SBI証券	33,344	34,828 過去最高	+1,484 (+4.5)
SBIジャパンネクスト証券	905	1,081 過去最高	+176 (+19.4)
SBIリクイディティ・マーケット	1,899	3,046 過去最高	+1,147 (+60.4)
SBI FXトレード	1,261	1,695 過去最高	+434 (+34.4)
SBI損保	△3,868	△618 大幅改善	+3,250 (-)
SBIマネープラザ	1,062	1,496 過去最高	+434 (+40.9)
モーニングスター*1	1,142	1,147 過去最高	+5 (+0.4)
SBIカード	△3,196	△1,212 大幅改善	+1,984 (-)
住信SBIネット銀行*2	2,062	5,196 過去最高	+3,134 (+152.0)

\*1 子会社であるSBIアセットマネジメント等を含む

\*2 持分法による投資利益  
IFRSベースでは保有国債等の時価変動に対し有価証券評価損益を計上しており、日本会計基準での利益水準と異なる。

## SBI証券

強固な収益基盤を構築し、  
過去最高益を達成

高村 正人

(株)SBI証券  
代表取締役社長



### オンライン証券業界において、 圧倒的な地位を確立

SBI証券における2015年3月期の連結業績(日本会計基準)は、営業収益が前期比4.6%増の776億円、営業利益が同5.9%増の347億円、当期純利益が同12.7%増の201億円となり、営業収益並びに全ての利益項目においてそれぞれ過去最高を更新しました。

日経平均株価がリーマンショック前の水準を回復した一方で、東京と名古屋の2市場合計の一日平均個人株式委託売買代金は前期比で23%下落しました。この影響を受けた他の主要オンライン証券4社が営業減益となる中で、SBI証券が過去最高益を更新した背景には、信用取引の増加に加え、投資信託やFXなどのビジネスを拡大して収益源の多様化を進め、株式相場に左右されにくい収益基盤を構築してきたことがあります。

SBI証券の2015年3月末現在における口座数は325万と国内オンライン証券では唯一、300万口座を突破しているほか、預り資産残高も9.4兆円と引き続き同業他社を大きく引き離す圧倒

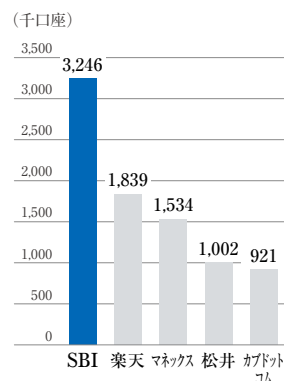
的な顧客基盤を有しています。大手対面証券を含めた証券業界全体でみても、口座数は第3位となっており、2位の大和証券株式会社に肉迫しています。

2015年3月期における個人株式委託売買代金シェアは前期比2.8ポイント上昇の38.1%、このうち個人信用取引委託売買代金シェアは同2.3ポイント上昇の40.5%と他社を大きく上回るシェアを保持し続けています。

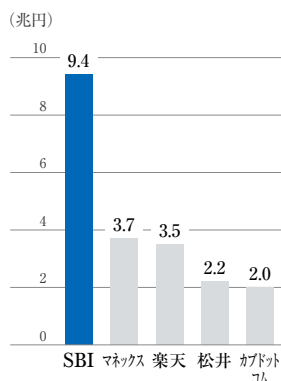
2015年3月末の信用取引建玉残高は7,873億円と、期末ベースで過去最高を更新しており、通期における金融収益は前期比17.8%増の289億円となりました。また、引受・募集・売出手数料は2015年3月期において同25.6%増の54億円となりました。投資信託の販売が2014年3月期に引き続き好調に推移した結果、2015年3月末の投資信託残高は1兆1,550億円、通期の信託報酬額は前期比28.3%増の38億円と、ともに過去最高を更新しました。さらに、新規株式公開(IPO)の引受社数は全証券会社中トップの73社で、全IPO件数に対する引受関与率も84.9%と業界トップの地位を確固たるものとしています。

### 主要オンライン証券5社の口座数及び預り資産

【口座数】(2015年3月末現在)



【預り資産残高】(2015年3月末現在)



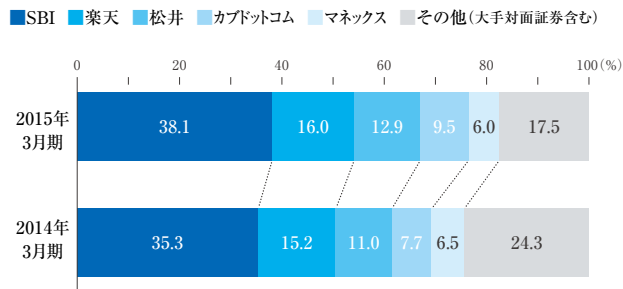
出所：各社ウェブサイトの公表資料より当社にて集計

### NISAにおける新規顧客の獲得

また、2014年1月から導入された少額投資非課税制度(NISA)については、2015年3月末現在で約64万口座、預り資産は2,726億円に達し、競合他社との差は歴然としたものとなっています。

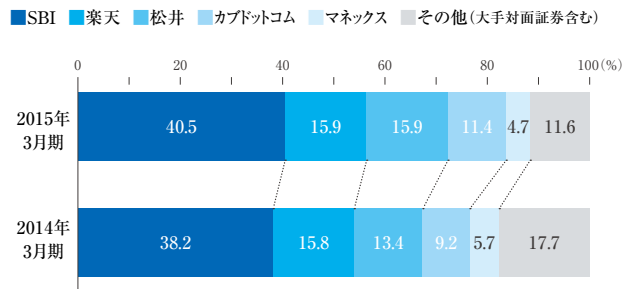
2015年3月末における口座の顧客属性をみると、NISA口座開設者のうち新規顧客は35%を超え、そのうち約67%が投資未経験者となっており、新規顧客の開拓において競合他社と比べて非常に高い水準を誇っています。年齢層別においても、NISA口座開設者の約60%を20代~40代が占めており、これから資産形成を行う若い顧客層の獲得に成功していることがわかります。さらには、口座稼働率が58%と他のNISA取り扱い証券会社と比較しても高い水準にあります。

個人株式委託売買代金シェア



出所：東証統計資料、JASDAQ統計資料、各社ウェブサイトの公表資料より当社にて集計  
 ※個人株式委託売買代金、個人信用取引委託売買代金は2市場1、2部等

うち、個人信用取引委託売買代金シェア



証券関連事業のグループ各社も好調

そのほかの証券事業と強いシナジーを有するグループ各社も揃って利益を伸ばしています。SBIジャパンネクスト証券が運営するジャパンネクストPTS(私設取引システム)は、東京証券取引所に次ぐ国内第2位の取引規模を誇り、PTSとしては日本最大規模の取引執行市場となっています。2014年3月期と比べて2015年3月期は株式市場全体における株式売買が低調であったにもかかわらず、ジャパンネクストPTSの売買代金は順調に拡大し、その結果、SBIジャパンネクスト証券の営業利益(日本会計基準)は、前期比24.4%増の11億円となりました。

FX取引でのプレゼンス向上

FX取引においては、2015年3月末のSBI証券、SBI FXトレード、住信SBIネット銀行の3社合計のFX取引口座数は61万口座、預り資産残高は1,734億円となっており、SBIグループ合計での口座数、預り資産残高はともにFX業界において競合他社を圧倒的に凌駕しています。

FX取引のマーケット機能を提供しているSBIリクイディティ・マーケットの売買高は、取引に参加するSBI証券、SBI FXトレード、住信SBIネット銀行の各社における顧客取引の拡大などを背景として着実に増加しており、SBIリクイディティ・マーケットの2015年3月期における業績は、取引に参加するSBIグループ各社への利益按分前の営業利益で前期比30.1%増の111億円と過去最高を更新しました。

また、FX取引サービス専業会社のSBI FXトレードにおいても、SBIリクイディティ・マーケットから按分された利益に基づく2015年3月期の営業利益(日本会計基準)が前期比33.7%増

の17億円と過去最高益を更新しました。SBI FXトレードの営業開始は2012年5月と、競合他社と比較すると後発での参入ですが、主要通貨ペアの全てにおいて業界最狭水準のスプレッドを徹底して提供するほか、安定性が高く、高性能な取引システムを提供することにより、変動が激しい相場環境の中でも高い競争力を発揮しています。

大口顧客を中心にFX取引を提供するSBI証券、小口・多頻度取引を行う顧客向けにサービスを提供するSBI FXトレード、そしてグループに為替のマーケットインフラを提供するSBIリクイディティ・マーケットを有することで、SBIグループの合計売買高は業界全体の伸びを上回る水準で推移しています。FX取引でのプレゼンス向上により、株式市場が低調な時はFX取引による投資機会を顧客に提供する補完関係を構築できたことで、安定的に利益が積み上がっていき、各社の過去最高益更新につながっています。

FX関連事業におけるグループシナジー



住信SBIネット銀行



## 連結経常利益は152億円と インターネット専門銀行では圧倒的な収益力

円山 法昭

住信SBIネット銀行(株)  
代表取締役社長



### グループシナジーによる営業基盤の拡大

住信SBIネット銀行は、国内最大の信託銀行である三井住友信託銀行株式会社とSBIホールディングスによる50:50の合弁会社で、預金残高、貸出残高、収益力のいずれにおいてもインターネット専門銀行として国内で圧倒的トップの地位を確立しています。

SBI証券と連携して提供している証券取引売買代金の自動入出金サービス「SBIハイブリッド預金」の利用者が2015年1月に100万人を超えるなどグループ内での強いシナジーの発揮が大きな差別化要因となり、2015年3月末の口座数は前年同月比33万口座増の231万口座、預金残高は同4,993億円増の3兆5,760億円となるなど、引き続き営業基盤は順調に拡大しています。なお、預金残高は2015年5月に3兆7千億円を突破しました。

### 商品の多様化が進むとともに、取扱額も順調に増加

住信SBIネット銀行の主力ローン商品である住宅ローンでは、三井住友信託銀行の代理店として販売する「ネット専用住宅ローン」に加え、特別金利キャンペーンなどが好評を博した「MR.住宅ローン」が高い支持を得ました。その結果、両商品を合わせた住宅ローン取扱額は2015年3月末で前年同月比5,025億円増の2兆2,796億円となり、2015年4月には住宅ローン取扱額は2兆3千億円

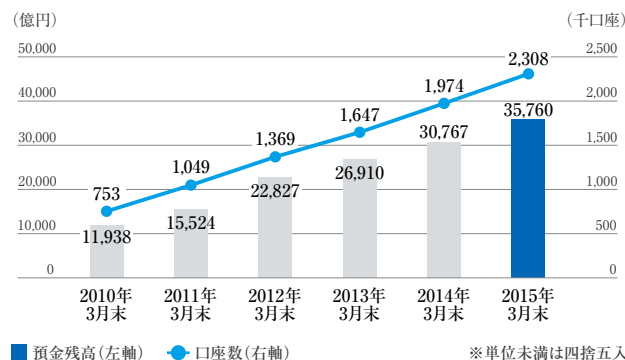
を突破しました。そのほかの商品ラインアップであるカードローンや目的ローンなども順調に残高が積み上がり、運用手段の多様化が進んでいます。従来の「ネットローン」をリニューアルした個人向け無担保ローン「MR.カードローン」は、最低金利1.99%という業界屈指の低金利の実現や利用限度額を1,000万円に拡大するなどの商品改訂を実施した結果、2015年3月末の実行残高が794億円に拡大しました。2013年5月から提供を始めた目的ローンの残高も2015年3月末で前年同月比1.4倍の規模に増加しています。

これらの結果、2015年3月期の連結業績(日本会計基準)は、経常収益が前期比21.0%増の572億円、経常利益が同29.6%増の152億円、当期純利益は同40.4%増の100億円となり、いずれも過去最高を更新しました。

### 安全性の強化に向けた取り組み

一方、近年はインターネット上での金融犯罪が増加傾向にあることに加え、スマートフォンでのインターネットバンキングサービスの利用が増えていることから、スマートフォンによる認証サービス「スマート認証」の取り扱いなど各種セキュリティ機能の強化や、預金口座の不正利用防止に向けた本人確認手続の強化など、顧客に安心して取引していただける環境整備に注力しています。

住信SBIネット銀行の口座数と預金残高



住信SBIネット銀行の住宅ローン取扱額<sup>※1</sup>



## SBI損保

### SBI損保の業績は大幅に改善、 2016年3月期に通期黒字化の見込み

城戸 博雅

SBI損害保険(株)  
代表取締役社長



#### 保険事業のグループ各社は順調に伸張

SBIグループの保険事業としては、インターネットを最大限に活用したローコストオペレーションの徹底により、保険料を抑えた自動車保険を提供するSBI損保があります。その他にも、地震補償保険を取り扱うSBI少額短期保険、医療保険や死亡保険を扱うSBIいきいき少額短期保険があり、いずれも保有契約件数、収入保険料が順調に伸長しています。また、2015年2月に新たに生命保険会社であるSBI生命(旧ピーシーエー生命)がグループに加わりました。

SBI損保の主力商品である自動車保険の契約件数は大幅な増加が続いており、2015年3月末の保有契約件数は前年同月比12.9%増の約73万件となりました。これに伴って、2015年3月期の元受正味保険料も前期比10.5%増の256億円に増加するなど引き続き高い成長を示しています。また、元受正味保険料に対する保険金支払に関わる費用と事業運営に関わる費用の割合を示す元受損害率及び元受事業費率は、それぞれ76.1%\*、23.3%となっており、その合計は100%を下回る水準となっています。

少額短期保険事業についても着実に成長を続けています。2012年3月に連結子会社化したSBI少額短期保険は、2015年3月末の保有契約件数が前年同月比11.6%増の1万3,533件、2013

年3月に連結子会社化したSBIいきいき少額短期保険の2015年3月末の保有契約件数は同19.4%増の3万8,753件となりました。

このほか、生命保険事業において、SBIグループが2015年2月に連結子会社化したSBI生命は、2015年3月末現在のソルベンシー・マージン比率が1,120.3%と十分な保険金支払余力を確保しています。また、実質的な自己資本を示す指標である実質資産負債差額は322億円と、これも十分な水準を確保しており、健全な経営基盤を有しています。

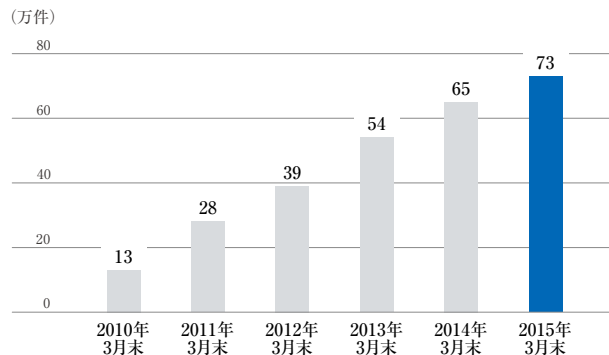
なお、2015年3月期においては、SBI生命の買収に伴う負ののれん発生益(純資産と取得価額の差額)として20億円を計上しています。

※期間中の支払保険金を収入保険料で除して算出するリトベースに基づく

#### SBI損保は2016年3月期に通期黒字化へ

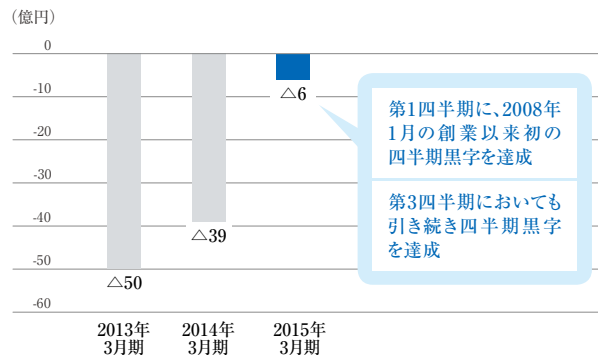
2011年以降、SBI損保では再保険や業務委託の抜本的見直しなどさまざまな収益力向上の取り組みを続けてきており、2015年3月期第1四半期には、2008年1月の創業以来初の四半期ベースでの黒字を達成しました。2015年3月期通期の税引前損失(IFRS)は6億円で、前期比で33億円の大幅改善となっており、2016年3月期にはIFRSベースで通期の黒字化が見込まれております。

#### SBI損保の自動車保険の保有契約件数



※当年度末までに入金された翌年度始期の新規契約を含む。  
※単位未満は四捨五入

#### SBI損保の通期税引前利益の推移(IFRS)





## 金融サービス事業における 共通インフラとして飛躍的に成長

太田 智彦

SBIマネープラザ(株)  
代表取締役社長



### 顧客基盤の大幅拡大に伴い、 増収増益を達成

SBIグループの対面販売部門であるSBIマネープラザは、金融サービス事業における共通インフラとして、証券、保険、銀行預金、住宅ローンを取り扱う、主としてフランチャイズ方式の対面店舗である「SBIマネープラザ」の全国展開を積極的に推進しています。

SBI証券との連携を強化したことなどが奏功し、SBIマネープラザの2015年3月末現在の預り資産は、前年同月比38.2%増の5,605億円と大幅に拡大しました。

この結果、2015年3月期の業績(日本会計基準)は、売上高が前期比17.2%増の48億円、営業利益は同49.5%増の16億円と2期連続で大幅な増収増益を達成しました。

### グループシナジーの起点として

既存店舗の統廃合を進めた結果、2015年3月末現在の店舗数は394店舗となりました。2015年5月には、大阪、阿倍野、伊丹、橿原の4支店を移転統合する形で、新たな大阪支店を梅田にリニューアルオープンしており、今後は全国500店舗展開の達

成を目指すとともに、既存店舗の統廃合等を通じた営業活性化を推進し、各店舗の質を高めていきます。また、収益構造の多様化を進め、各事業間のバランスを重視した成長を目指し、グループ各社との連携を強化することで、幅広い顧客層のさまざまな金融ニーズに応えるビジネスモデルを構築していきます。



SBIマネープラザ大阪支店

### 日本最大の金融ディストリビューターへ

あらゆる金融商品の中から最適な商品を選別するために、「商品を比較したい」、「専門家による的確なアドバイスがほしい」といったニーズは日々、増加しています。こうしたニーズにお応えするために、SBIマネープラザは中立的な立場でグループ内外のあらゆる金融商品と専門的なアドバイスを顧客に提供する日本最大の金融ディストリビューターを目指します。

なお、SBIマネープラザでは、早期の株式公開に向けて順調に準備を進めています。

## その他の金融サービス事業

投資信託を中心とした金融商品やウェブサイトの評価情報を提供するモーニングスターは、2015年3月期において営業利益、経常利益、当期純利益と全ての利益項目において過去最高を更新しました(日本会計基準)。連結子会社を除いたモーニングスター単体の営業利益は、11年連続で増益を続けています。

この他にも、SBIホールディングスの事業部として国内最大級の金融系比較・見積りサイトの「保険の窓口インズウェブ」や「イー・ローン」を運営しており、これらも引き続き収益に貢献しています。